



EAnetwork

9/1 は皆様もよくご存知の防災の日です。最近では地震だけではなく、豪雨や洪水被害など防災の意識を高める出来事が日々起きています。防災グッズもいろいろな場所で目にするようになってきました。言うは笑われるのですが、私の鞆の中にはライト、帰宅用地図、固形食品、飲料、甘味類、携帯用ブランケットが入っています。もちろん、使用する機会が訪れないことが一番です。(イ)

☆ Environmental column ☆

土壌汚染のさまざまな対応事例

土壌汚染の事例に様々な特徴が見られましたので、それらについて報告します。

まず、一つは自然由来に関するものです。東京隅田川の河口付近に昭和の初めごろに埋立造成された地区です。1 km ほど離れた2箇所の調査が実施されましたが、一方は昭和30年代からの自動車整備工場など、他方は昭和10年代後半から機械工業の使用履歴がありました。両者とも「フッ素」の汚染が検出されましたが、自動車整備工場では、濃度分布に局在性が無いこと、使用履歴がないこと、造成に当たって河口付近の浚渫土を使用していたことを確認して、自然由来と判断し、“汚染なし”と判定されました。一方、機械工場の事例では、比較的広い範囲(9区画中5区画)に分布しているにも拘らず、一部高濃度であったために自然的原因の検討を行っていませんでした。また、これらの現場から北東に数 km 離れた現場においても、指定基準を超過した砒素が検出されました。しかし、土壌汚染に見られる深度方向による傾向が見られないこと、検出された値が基準値の10倍を超えていないこと、造成が浚渫残土の埋立によるものであること、などから自然由来によるものと判定されています。何が何でも自然由来に結びつけて責任を逃れるような考えは容認できませんが、土地の造成履歴によっては自然的原因の検討も加えることが望ましいと思います。

戦後直ぐから50年以上も操業していた製薬工場の跡地では、第1種特定有害物質による土壌汚染が確認されましたが、公園用地として利用される一部ではスーパー堤防工事が行われており、将来にわたって改変される可能性が無いこと、周辺の地下水利用状況から健康リスクの心配が無いことから、調査対象外とされました。何が何でも修復措置の実施ということではなく、跡地の利用を考慮した対応があることが明らかになった事例です。このような考え方は今後増加すると思われる。

調査対象物質の選定についても気になる事例がありました。1例は、部品の洗浄にジクロロメタンを使用していた工場ですが、同業の別の工場で汚染事例があったということで、調査項目に“フッ素”を加えています。基本的には別の工場が特例であり、同業全てにおいて特例を採用することは、好ましいとは考えません。結果としてはフッ素については不検出でした。また、食品会社の研究所では有害物質を含む試薬を使用した履歴があり、有害物質を含む廃棄物を焼却した可能性がある、という理由で全項目25物質を調査対象としました。可能性があるということで調査対象に上げることは決して間違いではないと思いますが、その食品会社の研究所は現在も存在していることを考えれば、試薬に含まれていた有害物質や、廃棄物の焼却及びその処理について、聞き込み調査などにより更なる確認を行うべきではないでしょうか。

最近では、調査件数の増加に伴い、今回紹介したような懸念される事例も増えているようです。次の機会にも特徴的な事例を報告したいと思います。

☆土壌汚染対策法第5条第1項に基づく指定区域、現在の状況☆

2006年8月15日現在、土壌汚染対策法第5条第1項に基づく指定区域が全国で72カ所になっています。また、過去に指定され一部解除されている地域は、8ヶ所、解除が57カ所になっております。環境省 HP <http://www.env.go.jp/water/dojo/sekou/shitei.html>
環境省 HP は、毎月15日頃更新されます。

今回のEAnetworkいかがでしたでしょうか。このニュースレターへの感想や土壌汚染に関するご質問など、お気軽にFax またはnews@earth-app.co.jpまでご連絡ください。

このEAnetworkは、過去に弊社セミナーにご参加いただいた方及び弊社へ調査のご依頼を頂いたお客様にお送りしております。以後メーリングリストでの配信希望の方は、下記にチェックの上FAXにてご返送、またはnews@earth-app.co.jpまでご連絡ください。

弊社の個人情報保護に関する基本方針は、弊社ホームページに掲載しております(<http://www.earth-app.co.jp/privacypolicy.htm>)。個人利用に関して同意いただけない場合、また、今後配信を希望されない方は、お手数ですが同様にご連絡ください。基本方針に基づき、責任を持って登録を削除させていただきます。

株式会社アースアプレイザル
編集者：藤井史枝
伊藤祥子

TEL: 03-5298-2151

FAX 03-3252-5411

会社名

お客様名

- 次回の配信から、メーリングリストでの配信希望 e-mail:
 次回の配信を希望しない
コメント

アースアプレイザルグループおよび業務提携先
札幌アースアプレイザル（北海道）、アースアプレイザルN・E（神奈川）、中央開発・基礎地盤コンサルタンツ・ジオテック・りんかい日産建設・協和地下開発（関東）、アイエーシー（神奈川）、細野建設（長野）、トーエネック・フルエンゲル・東邦地水（中部）、建設基礎調査設計事務所（静岡）、阪神測建（関西）、三協エンジニア（奈良）、エイトコンサルタント（岡山）、復建調査設計（広島）、藤井基礎設計事務所（島根）、日本地研・アースアプレイザル九州（福岡）、リサイクルワン、グリーンフィールドEA（大阪）